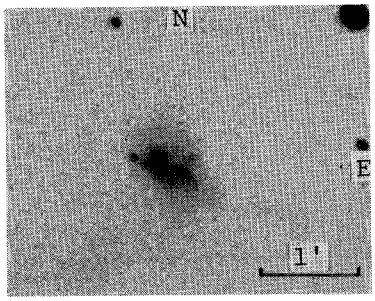
銀河めぐり〔XI〕 紫外超過銀河 NGC 3738

これまでの本欄に登場した銀河は，どれも有名で，姿かたちが整ったもの，雄偉なものばかりであった．それらに比べて今回紹介するのは，おそらくは皆さんになじみのない，どこの風来坊かといった趣の銀河である．しかしその特異なキャラクターは，宇宙の舞台での重要な役割を暗示する．

この銀河は，木曾観測所のシュミット望鏡遠で進めているUGR三色像による紫外超過銀河サーベイにひっかかったものの一つであり，KUG 11330+5448 という符号でリストされた．KUG というのは Kiso Ultraviolet-excess Galaxy の意であり，あとの数字は赤経・赤緯(1950.0)が $11^h33^m.0$，$+54°48'$ であることを示す．銀河カタログをみると，NGC 3738 がこれに当り，I（不規則型）で p（特異，ただし？つき），B 等級 12.1 等，$U-B=-0.17$ 等，$B-V=0.43$ 等というデータが記載されている，この色指数からもずいぶん青い銀河であることがわかるが，木曾の三色像写真でも U 像が特に強く，紫外超過銀河の代表例といってよいであろう．

下の写真は，岡山観測所の 188 cm ニュートン焦点で撮影したもので，全体がいくつかの HII 領域らしいかたまりから成る，かなり特異な銀河であることがわかる．



ただし，渦巻きやその他の周辺構造は見当らず，いわゆる hot-spots nucleus の銀河ではない．

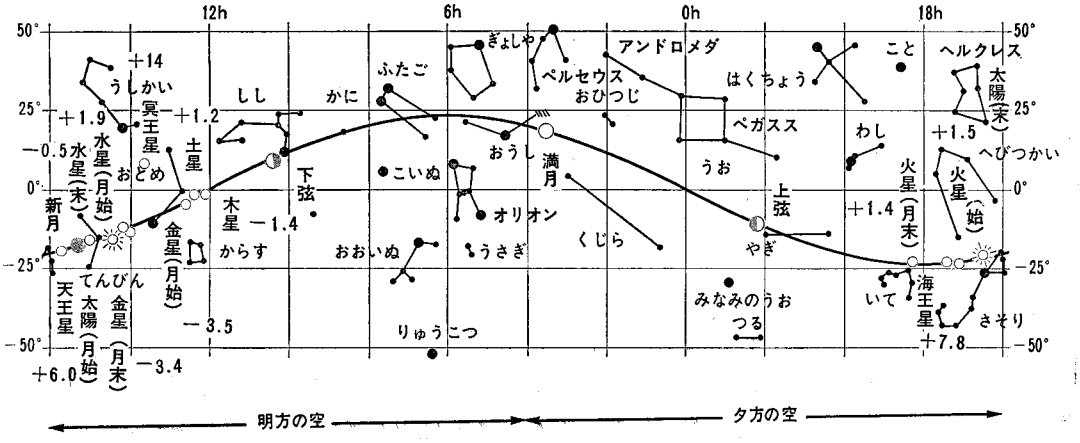
岡山の 188 cm カセグレン焦点につけたII分光器でスペクトルを撮影したところ，[OII] の 3727 Å，[OIII] の 4959，5007 Å，Hα，Hβ，Hγ 等の輝線が顕著な輝線銀河であることがわかった．多分この銀河は active magellanic irregular 型に分類されるべきものであろう．

すぐ近くにマルカリヤン銀河 Mrk 41，Mrk 177 等があるのに，それらより明るくて紫外超過も顕著なこの NGC 3738 が，マルカリヤンの探査からもれているのはどうしてであろうか．

NGC 3738 以外にも，木曾のシュミットで検出した KUG はすでに 1000 個をこえている．それらのおもなものについての，188 cm（できればさらに大きい望遠鏡）による形態やスペクトルの追究観測の結果が楽しみである．

（高瀬文志郎）

◇ 11 月 の 天 文 暦 ◇

日	時	記事	
3	18	水 星	内合
6	2	月	最遠
7	15	立 冬	(太陽黄経 225°)
8	6	**朔**	
12	13	水 星	留
16	1	**上 弦**	
18	10	天王星	合
20	4	水 星	西方最大離角
21	10	月	最近
22	13	小 雪	(太陽黄経 240°)
22	16	**望**	
29	19	**下 弦**	

◇ 11月の日月惑星運行図 ◇